

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(県立度会特別支援学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「力のある特別支援学校」 ○「教育力のある特別支援学校」 児童生徒の人権を大切にし、最大限の発達と進路保障を追求する学校 ○「対話力のある特別支援学校」 家庭・地域社会と連携し、常に相手の立場に立って考え行動する、地域に開かれ地域から信頼される学校 ○「組織力のある特別支援学校」 チームワークに徹し、進んで支え合い学び合う、働きがいのある学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○「将来の夢」や「なりたい自分」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学校生活を送ることができる子ども。 ○自他ともに大切にする人権意識を持ち、自己肯定感を高め、地域社会で生きていける力を身に付けていく子ども。
	ありたい教職員の姿	○児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、一人ひとりに応じその可能性を伸ばす指導・支援ができる教職員。 ○肢体不自由児教育に対する専門性を高め、自信を持って授業を行う教職員。 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<児童生徒> 安全で楽しい学校生活、卒業後の自立と社会参加 <保護者> 専門的な肢体不自由教育の充実、高等部卒業後の進路先確保 児童生徒一人ひとりを大切にする信頼できる学校 <地域の小中学校等> 特別支援学校のセンター的機能の充実、交流及び共同学習の充実
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	<保護者> 進路先や福祉事業所と学校の一層の連携 <関係機関(福祉、医療、労働等)> 支援にかかる情報の共有 障がい者を雇用することに対する不安の解消 <地域の学校> 児童生徒の居住地校との連携による相互理解
	連携する相手への要望・期待	<保護者> 早期からのキャリア教育における連携の推進 <関係機関(福祉、医療、労働等)> 支援に係る情報の共有、肢体不自由の児童生徒の支援・介助等に対する理解の深まり <地域の学校> 積極的な交流及び共同学習の実施 障がい者理解の推進

(3)前年度の学校関係者評価など		・医療的ケアや児童生徒の健康保持・増進のためには、職員の日々の取組に加えて、保護者との信頼関係を築き、日々の情報を共有し合うなど、地道な連携が欠かせない。 ・職員アンケートでは、「職場内に一息つける場所がある」と答える職員が毎年少ない状況が続いている。児童生徒数の減少により、以前と比べて部屋の確保は十分にできている。しかし、ズレ勤や短時間勤務など、多様な働き方を選択する職員が増えたことで、会議時間や休憩時間の設定が難しくなっている。その結果、休憩時間を確実に取得できているとは言い難い状況にある。 また、業務の公平感や多忙感から、心にも余裕を持ちにくいことも課題として考えられる。これらの解決に向け、これまでも校務内容の見直しを進めてきたが、長期的な視点での業務の平準化や AI の活用の推進など、さらなる改善が必要がある。
(4)現状と課題	教育活動	・障がいの重度・重複化が進んでいることから、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践が益々必要になってきている。今後も更なる肢体不自由教育における専門性、授業力の向上に向けた取組は必須である。 ・副次的な籍を利用した居住地校との交流機会など、地域の取組は拡大傾向にある。様々な機会を通じて地域の理解を深め、保護者の心情に寄り添い、取組を進めていく必要がある。
	学校運営等	・人権、コンプライアンス研修については、今後も児童生徒および保護者、関係地域の人から信頼に応えることができるよう、人権を尊重した取り組みを継続して行っていく必要がある。 ・教職員間で積極的に情報共有を行い、ICT を活用した学習機会等、様々な方法で学習機会を提供する。 ・働き方改革の一環である勤務時間の管理については業務の偏りによる多忙感の解消のためには、日常から職員どうしの対話を含めた同僚性の向上は必要である。今後は多様な働き方や個々の個性を踏まえ、それぞれの立場を尊重し、協力・協働の意識をもって業務にあたっていく必要がある。 ・災害や事故等に応じて適切に対応できるよう、適宜マニュアルの見直しを行う。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育活動を行うため、系統的なキャリア教育や ICT を活用した取組を推進し、肢体不自由児教育の専門性の向上を図る。 ・交流および共同学習の取組を通して、児童生徒が生き生きと生活できるよう地域とのつながりを深める。 ・教育課程に基づく系統的な学習活動の充実を図る。
学校運営等	・コンプライアンスの意識を高め、児童生徒および保護者、関係者からの信頼にこたえられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動を行う。 ・安心で安全な教育環境の整備を進めるとともに、感染症対策や防災等における危機管理の取組を推進する。 ・組織体制の見直しを進め、効率的な業務の進め方について検証し、働しやすい学校となるよう改善を進める。 ・研修や対話を通して教職員の同僚性を高め、互いに支えあえるような職員集団を築く。 ・教育委員会、玉城わかば学園、松阪あゆみ特別支援学校との連携を深め、円滑な接続ができるよう準備を進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程の編成	(1)教科学習をベースにした教育課程を編成する。 〈教務部〉 【活動指標】・単一・重複・訪問の教育課程を見直し、教科学習を基本とした教育課程を再編成し、教職員に周知を図る。 【成果指標】・令和9年度教育課程に適切に反映される。 (2)重複課程の各教科の年間指導計画を作成する。 〈教務部〉 【活動指標】・研修部と連携し、小学部低学年、小学部高学年、中学部、高等部の4段階でB課程・C課程の各教科の年間指導計画を作成する。 【成果指標】・B課程・C課程それぞれ4段階の年間指導計画を完成させる。	(1) 【活動指標】 【成果指標】 (2) 【活動指標】 【成果指標】	
交流及び共同学習の推進	(1)児童生徒の居住地にある学校や近隣の学校等との「交流及び共同学習」を進める。〈研修部〉 【活動指標】 ・居住地校交流の実施 希望者2回以上／年 ・学校間交流 各学部3回／年 【成果指標】 保護者満足度調査の結果 ・交流及び共同学習(居住地校・学校間交流)について、「概ね満足」以上の保護者80%以上 (2)交流及び共同学習を通して、本校の児童生徒への理解を進める。〈研修部〉 【活動指標】 ・年度末に居住地校交流と学校間交流の相手校に調査を行う。 【成果指標】 ・相手校の児童生徒にとって、交流をして「よかったか、概ねよかった」と返答した相手校80%以上。	(1) 【活動指標】 【成果指標】 (2) 【活動指標】 【成果指標】	
命を大切にする教育の推進	(1) 児童生徒の発達段階に合わせて「周囲とのかかわりの中で、多様な考え方を知り、自分、家族、友だちを大切にすること」の学びを深める。〈主事部〉 【活動指標】 ・命を大切にする学習活動 1回/学期 【成果指標】 ・なかまを意識した活動の様子や関わり方の変容が個別の指導計画に記録される。	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	(1)自立活動を基盤とした各教科等の指導の専門性を高め、教材・教具の工夫や丁寧なふりかえりを通して、児童生徒の変化を捉える教育実践を目指す。〈研修部〉 【活動指標】 ・校内研究9回／年以上の実施 ・学部を越えた縦割りの教科別グループで、子どもの困り感や課題を共有し、「教科×自立活動」の視点で授業づくりを検討する。 ・11月に外部講師を招聘し、校内公開授業を見て助言をいただき、授業改善を目指す。 ・全教員が一人1つ教材・教具を提案し、工夫や子どもの反応を記録して、学校全体で共有・言語化する。 【成果指標】 ・校内研究に関する事後アンケートを実施し、「教科×自立活動」「児童生徒の変化を捉える」という研究のねらいが達成されたと回答した教員80%以上	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
	(1)ICT 環境(iPad、支援機器類)の整備と活用を進める。また、ICT を活用した授業力向上をめざし、教員のニーズや実態に応じた研修会を実施する。〈情報教育部〉 【活動指標】 ・情報研修会 2 回／年開催。 ・アンケートは研修会前、直後と4か月後の計3回実施し、ICT を活用した授業実践の実態を把握する。 【成果指標】 ・研修会を通じて、授業で ICT 機器を活用した教職員の割合90%以上。	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
センター的機能の発揮	(1)本校が有する肢体不自由児童生徒の支援スキルが幼保小学校や地域の支援機関と共有されるための研修を実施する。〈進路路支援部〉 【活動指標】 ・本校における見学及び体験研修等 2回／年以上 【成果指標】 ・相談や助言により、相手校の課題が改善されたと答えた割合 80%以上	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
危機管理能力の向上	(1)安全安心な教育環境の整備と防災機能強化を進める。〈総務・生活保健部〉 【活動指標】 ・救命講習会、嘔吐物処理の研修会(各 1 回/年)実施 ・避難訓練(2 回/年 火災・地震)・消火器訓練(1 回/年) ・不審者対応訓練(1 回/年)・エレベーター訓練(1 回/年) ・防災研修会(1 回/年)・ダイヤル171体験(1回/	(1) 【活動指標】	

	年)・危機管理マニュアル更新・スクールバス救援出動訓練(2回/年) 【成果指標】 ・保護者満足度調査の結果、本校の危機管理対応について「概ね満足以上」90% ・職員満足度調査の結果、自己の危機管理意識が向上した職員90%以上、本校の防災対策が向上した職員80%以上	【成果指標】	
学校運営の効率化・同僚性の向上	(1)内規及びマニュアル等を円滑・適切に運用し、更なる学校運営の効率化、働き方改革を図る。〈企画運営委員会〉 【活動指標】 ・職員会議、企画運営委員会の60分以内、ペーパーレス化90%以上。 ・定時退校日月1回と長期休業中に設定するとともに、定時退校した職員 90% 【成果指標】 ・一人あたりの月平均時間外労働 10時間以下 ・一人当たりの年間休暇(年次休暇・夏季休暇)取得日数15日以上 ・時間外労働時間年360時間を超える教職員0人 ・時間外労働時間月45時間を超える教職員のべ人数 0人 (2)学校整備を円滑に進める。〈企画運営委員会〉 【活動指標】 ・整備の状況を、教職員・保護者に知らせる。 【成果指標】 ・あゆみ、わかばの整備内容を学校だよりで伝える。3回以上/年	(1) 【活動指標】 【成果指標】 (2) 【活動指標】 【成果指標】	
	(1)組織運営の在り方を継続的に改善し、「やる気」と「元氣」がみなぎる 組織風土を醸成するため、学校改善活動に取り組む。〈総務部〉 【活動指標】 ・働きやすい職場づくりのためのミーティングを実施。年に1回 ・「振り返りの時間」を利用して、児童生徒への接し方や業務上気になること、同僚同士の会話で問題を感じる事などの課題について話し合う。何か職員間で共有・対応すべきことがあった場合は、直接学校改善係に伝えてもらい、昨年同様係が対応していく。 【成果指標】 ・職員満足度調査の結果、日々の仕事にやりがいを感じている職員 80%以上。	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
	(1)児童生徒一人ひとりに応じた誠実な支援により、保護者・関係者からの信頼に答えられるよう、人権尊重の態度で教育活動を行う。〈学校信頼向上委員会〉 【活動指標】 ・学校信頼向上委員会開催 6回/年	(1) 【活動指標】	

	・コンプライアンスミーティング 4回以上/年 【成果指標】 ・保護者の満足度調査の結果、「学校は人権を大切にし、子どもの気持ちに寄り添った支援を行っている。」概ね満足以上の保護者 90%	【成果指標】	
	・職員のメンタルヘルスに関する取り組みを進める。 〈安全衛生委員会〉 【活動指標】 ・ストレス対処法セミナーの実施。1回/年 ・メンタル相談のお知らせを告知する。10回/年 【成果指標】 ・ストレスチェックの総合健康リスクを改善する。前年比プラス	(1) 【活動指標】 【成果指標】	
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)